

調査期間 2013年10月1日～継続中
所在地 秦野市蓑毛
時代 近世、奈良・平安、弥生、縄文、
旧石器
調査原因 中日本高速道路株式会社による新
東名高速道路建設事業に伴う埋蔵
文化財発掘調査
遺跡位置 小田急小田原線秦野駅から北方約
3.6kmに位置する。



主な調査成果

調査区周辺は、弥生時代以前は痩せ尾根と谷状地形があり、現在より起伏のある地形を呈していたようです。こうした地形を利用し、弥生時代・縄文時代では多数の落とし穴が見つかり、当時は「落とし穴猟」をおこなう「狩猟場」であったようです。旧石器時代では、北東部分の痩せ尾根上で、約2万年前の地層（L1H～B1層）から249点の槍先形尖頭器を含む、約3万点に及ぶ膨大な数の石器が発見されました。こうしたことから槍先形尖頭器を作る「石器製作址」であったことがわかりました。現在はより古い、約2万5千年前の地層（B2層上部）を調査中ですが、この層からもナイフ形石器や搔器などを多数含む、1万5千点を超える非常に大量の石器が発見されています。このほか複数の礫群が見つっています。これだけの調査成果は、県西部での調査事例は少ないですが、広く県内で見ても有数の旧石器時代の遺跡と言えます。



Ⅲ区東 B1層 黒曜石製槍先形尖頭器出土状況



Ⅲ区東 L1H～B1層 調査状況



Ⅲ区東 B2層 黒曜石製搔器出土状況



Ⅲ区東 B2層 礫群検出状況